

協議題 「生徒自身が学んだことを実感し、学びをつなげる授業の在り方」

グループ協議のまとめ

単元構成

- 個の学びを全体で共有している。「自分が学んだこと、経験したことを伝える」という観点がよい。
- △『職業科』として、どんな力を付けたいか、明確にしてはどうか。
- △「伝える」ことがメインとなり、生単と職業の違いは何か?→教科としてのねらいを明確にする。

学習活動

- 生徒が教えることでねらいに迫る学習活動ができていた。後輩に教えることで学び直す効果がある。
- 生徒が得意としている「話す」ことに焦点を当てた展開がよい。
- △トークタイムの内容の精選が必要か?→教師が内容を言語化して生徒にフィードバックする。

評価

- 1年生のアンケートが有効だった。→他者評価により自分へ返ることも大切ではないか。
- △ねらいと評価の整合性がとれていたか。→学びの実感、つながり、自分事への落とし込みは?
- △ねらいを焦点化できていたか。シンプルに! 明確に!

学び合いの場の必要性

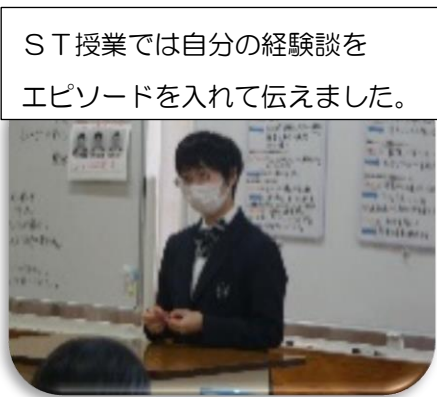
- 1、3年のやりとりでお互いの学びを深めた。
- 学年を越えた学びや他学年、他集団との学習の機会の設定は必要である。
- △1、3年それぞれの学びに、ずれはなかったか?3年生の感想は伝え方に焦点が当たっていた。

その他

- 掲示、ファイルが見やすく整理されていた。△高等部教育課程への位置付け(高1と高3の学び合い)
- △「伝える」目的のステップアップ(場、相手、内容)とスキルアップ
- △伝わったことが分かる授業のまとめ △1年生からの実習後のフィードバックをしてはどうか。
- △3年間のまとめとして、次につながる落とし込みが大切ではないか。



単元計画を提示して、学習の見通しをもちやすくしました。



ST授業では自分の経験談をエピソードを入れて伝えました。



グループトークでは、先輩がアドバイスをしました。

II 期現場実習に向けて

3年生特別授業で学んだこと

ケース1(通・退勤時のトラブル)

あなたは、ファッションセンター〇〇で実習しています。実習の3日目、乗るはずのバスが時間になっても来ません。この後、どのようにしますか?

ケース1(通・退勤時のトラブル)

- ☆10分待つ
- ☆冬場は時間になっても来ないことがある。
- ☆学校に連絡
- ☆状況を学年の先生に伝える。
- ☆今後の対応を先生に相談する。
- ☆立子板
- ☆スマホの電源は入れたままにしておく。

ケース2(出勤中の体調不良)

あなたは、日本荘で実習しています。実習4日目の昼、急にお腹が痛くなり、寒気もします。この後、どのようにしますか?

ケース2(出勤中の体調不良)

- ☆担当者へ報告、相談
- ☆お腹が痛く、寒気がします
- ⇒10分くらい休ませていただけますか
- ☆元気になるから
- ⇒お水を飲め、作業に戻る
- ☆改善が見られなかったら
- ⇒帰宅することを伝え、帰宅後に学校へ連絡

ケース3(休憩時のコミュニケーション)

あなたは、木工所で実習しています。実習の2日目の休憩時間に職場の女性(30代パート)と一緒にになりました。この後、どのようにしますか?

ケース3(休憩時のコミュニケーション)

- ☆実習生の人と話す話題
- ①仕事の内容
- ②最近のニュース、スポーツ、芸能、天気
- ③自己紹介(趣味、食べ物、テレビ)
- ⇒1人でゆっくり過ごす時間も大切
- ⇒無理に話そうとせず読書をするのも可

ST授業で個々にアドバイスを受けたことを、1年生6名の学びにできるように、ロールプレイをして共有しました。

高等部3年職業科Ⅱグループ「働く力を高めよう②～後輩に伝える3年生特別授業～」

◆指導助言◆ 秋田大学 准教授 前原和明 先生より

はじめに

- 相互に学び合うという学習観→『正統的周辺参加』との関連
- 依存しながら成長（例えばいろいろな人の手助けがあるからできる領域）
知識をバトンタッチして成長していく大切なポイントがこの授業にはある。
- 生徒たちの自己理解やキャリア発達の学びが見られた。

発達の最近接領域

十全参加

周辺参加

グループトークの様子

助けがあるとできる

一人できる



ST授業で、メモを取り真剣な表情で話を聞く1年生



教育現場の自己理解

- ①社会参加や就労支援する中で、自分自身を理解することは大切だと言われている。「できた」「できない」ではなく、プロセスを振り返る、自分の過去の経験を振り返る、自分の強みに注目する、対処方法など行動につながる助言、他者の意見を参考にし、同じ障害のある仲間から学ぶことも多い。
- ②教育現場で自己理解を促進するために行われていること〔※秋田大学 内海先生の論文より〕
 - 生徒主体の学習をしているか（他者と関わりながら試行錯誤する）
 - 経験を振り返る機会があり再構築しているか（経験と現実をすり合わせる）
 - 他者評価を活用しているか（評価基準を共有する）

自己理解のポイント

- ①肯定的に自己を理解すること、生活の主体者となることを支援することが最終目標である。
 - 肯定的に自己を捉える体験を準備できているか。
 - 環境に働き掛けていく体験を設定できているか。
- ②自己と向き合う姿勢を支援する。→卒業後も適切に自己を捉える基盤となる。
- ③自己は状況において変化するものである。→自己について気付くための関わりの経験を準備しておく。

授業の面白かった点…

- ①エピソードという切り口の面白さ
「私の課題は…」「例えば…」など、お互いの経験を了解し合うことができていた→ズボンのチャックの話は強い影響力がありうまいエピソードだった。
- ②「言語的理解」と「身体的理解」
言葉では知っていても、腑に落ちていないことはたくさんある。
1年生も課題がどのようなことか、自分事として理解できた。



『相手に伝えたことで分かったこと』、『相手に伝えることで頭の中に定着したこと』について、更なるフィードバックが必要である。授業のまとめの部分で触れられると定着し、意味付けができたのではないか。